



私は三重県の南端の病院で小児科医として診療を行っています。月曜日から金曜日(実際は救急外来として土日も診察しています)に一般診察、予防接種外来、乳児健診を行っています。外来以外の時間は入院患者さんの診療や検査を行い、夜間も急患や病棟の患者さんの急変に備え、自宅待機をしています。

小児科医は一人

小児科医は一人ですが、当地唯一の小児科の第二次医療機関として、年間およそ三百人が入院し、新生児・小児特有の疾患や、外来治療では困難な症例を受け入れています。小児科医が一人です。時間的な余裕はありません。重症の患者さんがい

医療資源の格差否めず

ると、他の診療がストップしてしまつこともあります。

当院で治療が困難な症例は、大学病院等の第三次医療機関へ

の紹介・搬送を行います。三重県は南北に長く、南から北へ行

そこで、病院スタッフや患者さんの親、時に患者さん(子供です)にまでアドバイスを乞い、「弟子」にしてみました。「先生、参考にしてください」と、潮の干満表を持ってきて良い時間帯を教えてください、同行指導をしてくれたり、多くの「師匠」のおかげでどんどん上達しました。

くには幾つもの山を越えなければなりません。搬送といつても主要道路は国道42号線しかなく、台風や大雨、土砂崩れで交通が遮断されれば、陸の孤島となります。

「今度はボートで沖へ出て、ジギング(金属製の疑似餌で魚を釣る方法)で青物(ブリ、カンパチ、ヒラマサなど)を狙いに行きましょう。さおは六フィートで今はそんなにハードなタックル(釣り道具一式)でなくてもいいですよ...」。今ではこんな会話も分かるようになりました。

鈴木 幹啓 24期生、2001年卒

みきひろ 幹啓

すずき 鈴木



外来診察室からは太平洋が一望できる

紀南病院

【私の勤務地】紀南病院は三重県南端に位置する御浜町にある。診療圏には約5万人の住民を抱え、地域の中核病院として288床を備えている。病院は高台にあり、眼下に太平洋を望むことができるほか、病院周辺にはミカン畑が広がり、熊野古道も近く、自然環境に恵まれている。

疲れ癒やす釣り

忙しく、また緊張も強いられる日々ですが、私の当地での勤務も三年目になります。海が近いというせつかくの好環境なので、今年から釣りをすることにしました。これが実に奥が深いのです。あらゆる本やDVDで勉強をしても一向に魚は釣れません。

釣りの後は家でお疲れ会です。釣れた魚の刺し身や料理を味わいます。週に三〜五日は釣りに行くという師匠に毎週のようになに誘われますが、私にはそんなに休みがなく、断らなければいけないのが非常に残念です。なかなか都会では味わえない生活を送っています。

(次回予定は福岡県)